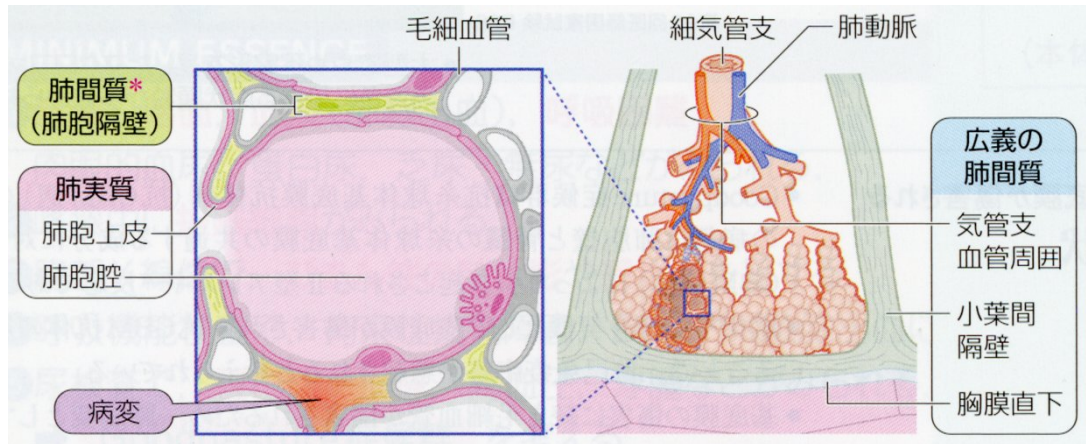
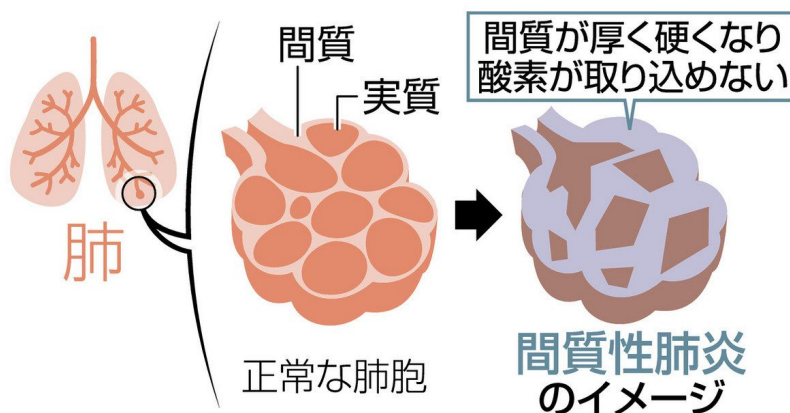


「間質性肺炎」の話



「肺」は、空気中の酸素を体に取り入れ、いらなくなった二酸化炭素を外に出す働きをしています。「肺」は「肺胞」と呼ばれる約3億個の小さな袋がたくさん集まってできています。「肺胞上皮細胞」と「肺胞腔」は「肺実質」と呼ばれ、酸素と二酸化炭素をガス交換に関わっています。一方で、「肺実質」の間を埋めている肺胞中隔を構成する結合組織の部分、「肺間質」があります。（図 上）



「肺炎」は、病変の主な存在部位により「肺胞性肺炎」と「間質性肺炎」に分けられます。

「肺胞性肺炎」では微生物の感染により主に「肺胞腔」内に炎症が起こり、炎症細胞が浸潤します。一般に言われる（狭義の「肺炎」は「肺胞性肺炎」を指します。いわゆる「肺炎」は、肺炎球菌などで「肺実質」部分

に炎症が起きる病気です。「肺胞」内に膿（うみ）、痰（たん）がたまって肺の機能が低下します。

一方、「間質性肺炎」は、「肺胞」の壁に炎症や損傷が起こり、壁が厚くなる（＝線維化）ためにガス交換がうまくできずに、体の中に酸素を取り込みにくくなる病気です。

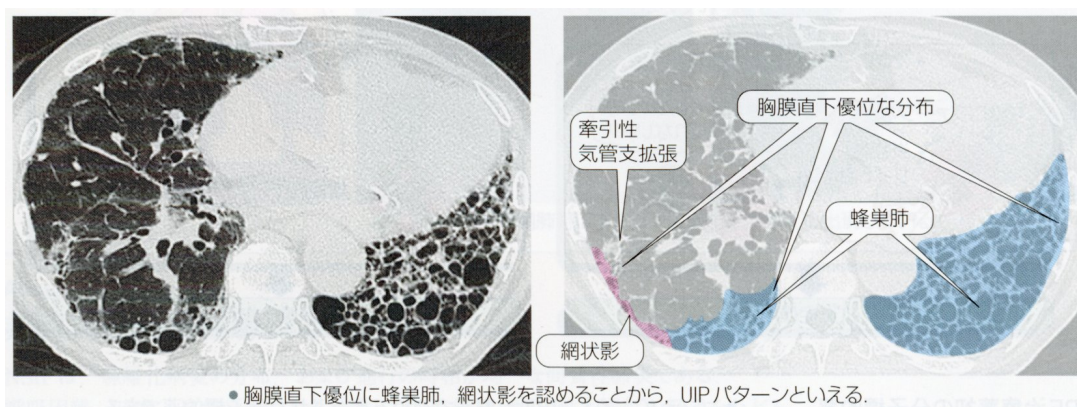
「間質性肺炎」には様々な種類があります。職業・環境性や薬剤などの原因が明らかなものや膠原病・サルコイドーシスなどの全身性疾患に付随して発症するものとともに原因が特定できないものが含まれ、その数は200種類以上に及びます。炎症を伴わないものもあるため「間質性肺疾患」とも呼ばれます。

患者が最も多いのは、原因を「特定できないもの」のタイプで「特発性間質性肺炎（IIPs：idiopathic interstitial pneumonia）」と呼ばれています。「特発性」とは原因不明という意味です。IIPsは「特発性肺線維症（IPF：idiopathic pulmonary fibrosis）」などの9疾患に分類されます。

原因が不明でも、現時点で種々の知見は得られています。多様な遺伝的背景に加え、環境因子の影響を受ける慢性炎症や繰り返す「肺胞上皮」の損傷の関与が想定されています。直接の原因ではなくても間接的な影響を与える「リスク因子」として最も重要なのは「喫煙」です。その中でも厄介なのは「間質性肺炎」の全体の20～50%を占める「**特発性肺線維症（IPF）**」です。IIPsの中で最も多く（50～65%）、慢性かつ進行性の予後不良の疾患です。5年生存率は40～60%、生存期間中央値は3年前後とされています。線維化・＜蜂巢肺＞形成（図 下）を特徴とする肺疾患です。

「間質性肺炎」の症状として、安静にしている場合には感じないのに、歩行、階段昇降時、入浴、食事、排泄時に息切れを感じる事があります。また、痰を伴わない咳、「乾性咳嗽（かんせいがいそう）」に悩まされることがあります。ただし、初期にはあまり症状が無く、健康診断やその他の病気の胸部レントゲン検査や胸部CT検査により病気が見つかることもあります。

通常、病気は徐々に進行し、当初は労作時に息切れであったものが安静時にも息切れを感じるようになり、その場合には、酸素療法が必要になることもあります。また、風邪を引いたことなどがきっかけとなり、急速に病状が進行することもあります。予後の悪い病気で、高齢化に伴い患者が増えています。しかも、一般に認知度は低く、初期症状を見逃して知らないうちに重症化するケースもあります。「間質性肺炎」の年間死者数は、2021年に2万人を突破し、2022年には日本人の死因の11位（男性では9位）になっています。深刻な病気ですが、「せき」や「息切れ」などの自覚症状があっても発見が遅れることは珍しくなく、よく似た症状の「心不全」や「喘息（ぜんそく）」、「慢性閉塞（へいそく）性肺疾患（COPD）」とも間違われやすいのです。



* UIP：usual interstitial pneumonia（「通常型間質性肺炎」）の略。病理組織学的所見（図 右）と高い確率で合致する高分解能CT画像でのパターンにおいても「通常型間質性肺炎」であることを示します。

* 図（右）：「蜂巢肺」

肺胞構造が破壊され置き換わった線維化病変の中に不規則に拡張した気腔が多数形成され「蜂の巣」のような構造を呈することがあります。

典型的な「蜂巢肺」はIPFの病理組織であるUIP（上記）で見られます。



「間質性肺炎」の診断には、胸部レントゲンや胸部 CT（図 上）などの画像検査を行い、血液検査で原因のある「間質性肺炎」かどうかの評価が行われます。KL-6、SP-D（サーファクタントプロテインD）という血液検査の項目が疾患マーカーとして使われています。また、呼吸機能検査では肺が正常に膨張しない病態による「拘束性（こうそくせい）換気障害」を呈します。

図は、「病気が見える vol.4 呼吸器」＜MEDIC MEDIA＞、「東京新聞」記事から引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。
これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4（御国通り2丁目）
電話：0745-65-2631